

文字摺通信

第93号
2025年8月1日
発行:文字摺歴史文化社

飯坂湯野愛宕山公園にて

宮本百合子文学碑と野田平業作狛犬

大正6年（1917）4月の百合子の日記を読む。

4月2日（月）「午後から愛宕山のはずれの方からグルッと一廻り歩いて来る。六時すぎにお父様がお着き、夕方のうす暗い中を、黒い外套の衿をたてていらっしゃった時には、お父様と思えなかったほど若く美しく見えた。・・（後略）・・」

4月3日（火）「おとうさま福島の式へいらっしゃる。・・（後略）・・」

父中條精一郎（建築家、中條政恒の長男）は、市制10周年祝賀式・公会堂落成式に招待されていた。精一郎が建築設計主任を務めた公会堂の落成式に招待され、あいさつで次のように述べている。「予は明治6年より14年に至るまでの小学校時代をこの福島で送りたり。今日懐かしき山川に接して感慨無量なるものあり。」

お父さんっ子の百合子は、精一郎が福島へ出張で来る数日前から飯坂温泉に泊っており、4月2日の日記の冒頭にあるように、この日、愛宕山公



【精一郎設計による福島市公会堂】

園を散策してきたのである。愛宕山公園の頂上に愛宕神社があり、その一段下の公園に、この来訪を記念した文学碑が百合子生誕90周年の平成元年（1989）に建立された。石碑には3つの窓があり、両脇は花が刻まれ、中央には百合子作の句「あすの空 伸びゆく芽生 いま萌えて」が刻まれている。

